

八重山平和祈念館 (分館長 名城政広)

☆高校生平和ガイド：島尻優楓さん (八重山高校)、嶺井千裕さん (八重山農林高校)

○「平成 26 年度八重山平和祈念館 高校生平和ガイド養成講座」

同世代だからこそ、伝えられることがある。

(平成 27 年 7 月 14 日：現地取材ほか)

【実践事例紹介】 八重山平和祈念館嘱託員 迎里円 (むかえざと まどか) ほか

(聞き手：沖縄県平和祈念資料館 古謝将史)

1. 八重山平和祈念館による高校生平和ガイド養成講座を実施するきっかけについて

(聞き手) 今回、高校生平和ガイドを養成する講座を開設するきっかけはなんのでしょうか？

(迎里) 当館では、施設利用の促進が課題となっていました。学校側の利用、とくに高校生の利用が少ないことが大きな課題でした。戦後 70 年の節目の年を迎え、八重山における戦争マラリアの実相・教訓を正しく伝えるためにも、高校生が当館を利用するにはどのように取り組めばよいか、職員で話し合ってきました。

そこで、高校生による平和ガイドを養成する取り組みをスタートさせることになりました。

【高校生平和ガイド養成講座 趣旨】

「高齢化により沖縄戦体験者が減少し、戦争体験が風化することが危惧されているなか、「八重山平和祈念館の基本理念」に基づき沖縄戦や八重山戦争マラリアの実相などを伝え、平和の尊さを次世代につなげるために、高校生平和ガイドの養成講座を行うこととする。

また、講座を受講した高校生たちがガイドとして館内を案内することで、戦争という愚かな行為を二度と繰り返さないという平和を希求する心を、多くの方々に伝えることを目的とする。

～ 平成 26 年度 実施要項より ～

《主な内容》

- 八重山平和祈念館にて「八重山平和祈念館高校生平和ガイド養成講座」を開催する。
- 講座終了後は、受講生の希望により、平和学習で来館する学生、修学旅行生及び観光客等への館内ガイドや、当館の企画するイベント等に携わることができる。

《対象となる地元の高等学校》

- ・八重山高等学校 ・八重山商工高等学校 ・八重山農林高等学校 ・八重山特別支援学校高等部

2. 養成講座の様子

(1) 第1回 平成27年2月21日(土) 10:00~11:40

場所：八重山平和祈念館 講師：八重山平和祈念館職員

- ①自己紹介 ②沖縄県平和祈念資料館の説明、八重山平和祈念館の説明と設立の経緯
③アニメ映画「石の声」鑑賞 ④ディスカッション



(平和祈念館等 説明のようす)



(アニメ映画 鑑賞中)



(ディスカッション風景)

(2) 第2回 平成27年3月12日(木) 10:00~12:00

場所：八重山平和祈念館 講師：八重山平和祈念館嘱託員

- ①館内案内(バックヤード含む)と展示物の解説 ②沖縄戦と八重山の戦争※戦前~沖縄戦
③ディスカッション



(強制避難の経路解説)



(展示物解説)



(沖縄戦と八重山の戦争解説)

(3) 第3回 平成27年3月13日(金) 10:00~16:00

場所：島内戦跡 講師：八重山戦争マラリア遺族会

- ①体験者 田本徹氏による講話 ②戦跡巡りの注意点
③八重山の戦跡巡り(白水避難地→暁の塔→ヘーギナー壕→宮良海岸の銃眼跡→特攻艇用栈橋)
④ディスカッション



(田本徹氏による講話風景)



(白水カマド跡 説明)



(白水 蝸壺跡前)

沖縄県平和祈念資料館連携 沖縄戦平和学習実践事例シェアリングプロジェクト
No.5 【八重山平和祈念館 高校生平和ガイド】紹介編



(白水 支庁壕前にて)



(白水 支庁壕)



(暁の塔 野戦病院跡)



(ヘーギナー壕入口)



(ヘーギナー壕内部)



(特攻艇 棧橋跡)

(4) 第4回 平成27年3月21日(土) 10:00~12:00

場所：八重山平和祈念館 講師：八重山平和祈念館嘱託員

- ①戦後の沖縄と八重山の状況 ※戦後～現在の沖縄 ②現在の世界の状況(戦争・紛争)
③案内に際してのポイントと注意点 ④館内案内の練習 ⑤ディスカッション



(練習風景① 職員による指導)



(練習風景②)

(5) 実習 平成27年3月～

内容：少人数の来館者に対して館内案内を複数回行う



(3月22日実施の様子)



(ガイド用原稿の確認中)



(3月25日実施の様子)

(6) ガイド実施 平成 27 年 5 月～

内容：事前予約を行っている団体、修学旅行生に対して館内案内



(4月21日 県外修学旅行生へガイド)



(6月9日 地元 八重山高校へのガイド)

3. 高校生平和ガイドに応募したきっかけとガイドを通して気づいたこと

(聞き手) 今回の高校生平和ガイドに応募したきっかけは何ですか？



(島尻優楓さん) 昨年(平成 26 年度)、おきなわ国際協育人材育成事業に応募しラオスへ派遣されました。その時、不発弾の被害や処理についての課題などを見て、私たち沖縄にも同じ課題があることに気づきました。そこで、もっと、地元の歴史や課題について学びたいと思って応募しました。

(嶺井千裕さん) 私は、以前から平和祈念館にはよく足を運んでいました。「児童・生徒の平和メッセージ」にも応募したりしていたので、平和祈念館の活動には興味がありました。今回の応募も、職員から紹介されて応募することにしました。

(聞き手) 講座を通して、どんなことを感じましたか？

(嶺井千裕さん) 沖縄戦や八重山の戦争マラリアについては、小学校からの平和学習である程度知っているつもりでした。だけど、その知識は大まかなものであって、具体的な数字としての理解は、今回の講座ではじめて知りました。小学校や中学校でも、同じ内容を学んだはずだけど、高校生になって数字・統計データとして知ることによって、より理解が深まったと感じています。

(島尻優楓さん) 私も同じように、知っているつもりでした。講座を通して、小学校や中学校で学んだ内容が、ようやく具体的に理解できるようになったと感じました。





(聞き手) 講座で学んだ知識をガイドとして実際に伝える経験をしました。どのように感じました。

(島尻優楓さん) 自分と同じ同世代にガイドをしてみて、「こんなことがあったなんて知らなかった」などの感想が聞けました。また、「優楓が、がんばって話しているから、自分も調べてみたくなった」と話してくれた同級生もいました。大人が話すよりも、同世代の視点で話すことで、もっと関心を持ってくれるのではないかと手ごたえを感じています。

(嶺井千裕さん) 母校である小学校で、平和講話をする機会がありました。その際、どんな言葉で話せば理解してもらえるかと、小学生とのやり取りを通して考えさせられました。もう一度資料を見返して、八重山祈念館の方にも聞いたりして、ガイドの仕方を考えるようになりました。

(聞き手) 今回の経験を踏まえながら、将来像・目標について教えてください。

(嶺井千裕さん) 私は、農業をするつもりで進学しました。一方で、教師にもなりたいという思いもありました。私の高校には、「愛郷愛土」という言葉があります。今回の平和ガイドの経験を踏まえて、将来は、教師を目指したいと思っています。そのためにも、郷土の歴史や文化についてもっと学んで、伝えられるようにしたいです。

(島尻優楓さん) 私は、高校卒業後、留学したいと思っています。世界中で私と同じような若い世代と、交流を深めたいと思っています。今回の平和ガイドを経験して、まだまだ、地元にも知らないことがたくさんあることにも気づかされました。



(聞き手) 高校生平和ガイドとして、実社会で実践を重ねています。ある意味、職業意識も芽生えていると思います。その経験から、学校での平和学習などについて、意見はありますか？

(島尻優楓さん) 高校生は、いろんなことをより具体的に理解できる時期だと実感しています。だから、私としては、もっと時間がほしいです。授業の中で、みんなとディスカッションできる時間があれば、世の中や地元の課題について、もっと理解が深まると思います。私自身、同世代で、いろんなことにチャレンジしたいと思っていますし、今実際にプロジェクトをスタートさせています。高校生だからこそ、もっと知りたいと思っているし、もっと理解したいと思っています。そのためにも、授業などで、ディスカッションなどができる時間を与えてほしいです。

(嶺井千裕さん) 授業の中で、平和学習の時間もあります。一時間の授業の中で、プリント一枚について調べて解答することがほとんどです。私としては、基本的な知識(用語)に



ついて、調べて解答するだけでなく、もっと具体的な事を教えてほしいです。養成講座でもそうですが、高校生になったから、数字（統計データ）で具体的に理解できる時期になっています。その時期にあった、より具体的な歴史について、たくさん学べるような授業を望んでいます。

4. 「高校生平和ガイド養成講座」を実施して ～感想・課題～

◎感想

初めての取り組みで私たちも手探りの状態で始めましたが、彼女たちの勉強したい、伝えたいという強い思いに力をもらっています。実際に体験者のお話を聞いた時のこと、戦跡を歩いて感じたことなどを、彼女たちはガイドの中でとてもリアルに語る事ができ、自分たちができることは何かについて自信をもって話すことができます。それは、彼女たちが講座の中で戦争とは何か、若い世代にできることは何か、というテーマに真剣に向き合ってきたからだと思います。また私たち職員も、ガイドを聞くことによって、高校生の2人がどこに注目をして何を感じたかを知ることができるので、今後の解説などをどう工夫していけば良いかを考える機会となりました。



彼女たちのガイドを通して、来館者に多くの気づきがあり、八重山の戦争のことをより身近な問題として捉えてもらうことが出来たのではと思います。「自分も勉強したい」と来館してくれる若い世代、また「若い世代が頑張っているから、自分たちも何か行動したい」という地域の大人や先生方も増えてきているので、高校生ガイドが語る影響力の大きさを実感しています。戦争体験を“聞く”というだけでなく、人に“伝える”ということを通して、その聞いた体験や学んだことが自分の中に刻み込まれ、「主体的に」平和を考えることに繋がっていくのだと思います。さらに「自分の考えを伝える」という点でも大きな訓練になるので、将来島から出た時、地元で培った感性や考え方を自分の強みとして自信を持って進める力となればと思います。

◎課題

地元の学校が見学に来るのはほとんどが平日となり、高校生ガイドも授業あるのでなかなか地元の学生へのガイドが難しい。高校側とも連携を強くし、出席扱いにしてもらえないかなど、ガイドの時間を調整していく必要がある。

(八重山平和祈念館 迎里円)

同世代だからこそ、伝えられることがある。

～ 以上 ～

～ 沖縄戦平和学習」今後のシェアリングのために ～

『自らの課題として主体的に行動することのできる世代へ』

今回の実践事例紹介は、八重山平和祈念館による高校生平和ガイドの取り組みです。戦後70年を経て、戦争体験者による戦争記憶の継承がますます困難となっています。その記憶の継承についての取り組みは、残り少なくなった戦争体験者による貴重な証言を記録・収録することを中心に行われております。私たちにとっての課題は、その収集された体験者の記憶をどのように次の世代に伝えていくか。このことは、日頃よく言われる課題でもあります。しかしながら、より大きな課題としては、「自らの課題として戦争の記憶を継承したい（しなければならぬ）と主体的に行動することのできる次の世代」をどのように養成していくかということではないでしょうか。

私たちが考えている「沖縄戦の記憶を継承する」ということは、単なる昔話・言い伝えとしての記憶を継承するということとは違います。現在・将来へ引き継ぐべき実行性（平和構築、平和実現）を伴う記憶（教訓）を継承するということだと思います。そうであれば、私たちが次の世代に期待する姿とは、前述のとおり、沖縄戦（戦争マラリア）の記憶を、「自らの課題として」継承する姿であり、平和のために「主体的に行動する」姿なのではないでしょうか。

今回の取材で出会った島尻さんと嶺井さん。二人は、八重山における戦争マラリアの実相や現在に続く課題をより深く理解することはもちろん、自らの将来像を明確にイメージしていました。平和ガイドの経験を重ねるたびにわき出てくる新たな疑問や課題に対して、平和祈念館職員の協力のもとで学び直しを続けています。島尻さんは、通称「島プロ」を立ち上げ、同世代とともに地元の課題について勉強会を立ち上げています。嶺井さんも、琉球芸能の地謡として、八重山芸能を紹介する一翼を担っています。「自らの課題」を持ち「主体的に行動する」姿そのものです。この二人の成長も、八重山平和祈念館の積極的な関わりあってこそでもあります。

名城分館長はじめ職員の方々、高校生ガイドのお二人、学校関係者の皆様のご協力に感謝申し上げます。